

## 平成28年度 ひまわり園事業報告

### 【事業概要】

平成28年度は、自律（自立）、友愛、社会参加の3つの支援を基本方針として、生活介護（定員24名）・就労継続支援B型（30名）・就労移行（6名）の3事業を基本に、特定相談支援事業、GHの運営管理を加えて、関係機関や団体、他施設、地域との連携・協働を通して、一人ひとりのニーズに合わせた福祉サービスの提供に取り組みました。

園が管理しています障害福祉サービス事業の総収入は対予算比 8,470 千円の増加、支出は 10,848 千円の減となり順調に推移したと思います。

生産・販売活動におきましては、園全体の売上げとしましては 18,195 千円となり対前年度比 3,193 千円(25%)の売り上げ増となりました。

天神のカフェサンフラワーにつきましては、市役所1階ロビーの同業者との競合もあり、依然として厳しい経営環境にありますが対前年度比 635 千円(15%)の売り上げ増とすることができました。

利用者支援につきましては、自分でできることを増やしていく取り組みを重視していくことが大事なことは言うまでもありませんが、一方でこれまで障害のある子どもを支えてこられた家族の高齢に伴う様々な課題が出てきた一年でもありました。家族特に母親が亡くなられたり、病気に罹ったりすることにより利用者の世話ができなくなるということは即、利用者の生活の場の変更を余儀なくされる事態になりやすい状況があります。こうした理由でひまわり園を退所される方がここ1～2年で急に増加してきました。家族以外のホームヘルパー等の他人の支援を受けることや、グループホーム等の利用に慣れておくことも、家族の高齢化対策として大事であることを痛感させられました。利用者の自立（自律）への支援は家族の高齢化とともに、より一層重要な課題となると思います。園としましてもできるだけ通所送迎や、日中一時などのサービス提供等の充実を図っていきます。しかしながら、家族機能の代替をひまわり園だけで担うのには限界があります。法人全体として、相談支援事業を通じた社会資源の活用を図るための基幹相談支援センターの受託。緊急時のショートステイ等の機能を備えたグループホームの開設をはかりました。グループホームに園の利用者2名、6月以降はプラス2名計4名が入居されます。

## 1 利用者状況

(平成29年3月31日)

項目	内容
定員（実利用）	60名（69名）
男女別	男性34名 女性35名
平均年齢	全体37.82歳、男37.4歳、女38歳、最高齢67歳、最年少18歳
障害の程度	A1：12人 A2：35人 A3：3人 B1：17人 B2：2
住居	西：40人 早良：14人 城南：5人 中央：4人 南：2人 博多：1人 東2人 市外1人

## 2 事業名及び所属人数

事業名	利用者定員	登録数			支援員
		男性	女性	合計	
生活介護	24名	14	14	28名	11.2名
就労継続B	30名	17	18	35名	5.7名
就労移行	6名	3	3	6名	1.9名
合計	60名	34	35	69名	18.8名
GH	13名	9	4	13名	6名（世話人）
サービス管理責任者					1名
GHサービス管理責任者					1名
相談支援専門員					2名
管理者					1名
計	72名	40名	39名	79名	29.8名

## 3 生産品売上高

園全体 売上げ 18,195 千円  
生活介護 売上げ 1,236 千円  
就労継続B 売上げ 16,959 千円

## 4 事業別活動状況

### 【生活介護事業】

生活介護事業における生産活動は自主製品（陶芸・木工・手芸）の製造販売に加えてそれぞれの特性に応じて袋作り、ポスティング等の新しい仕事も導入しました。また、外部講師の指導による、月一回の創作活動やストレッチを実施して内容の充実を図りました。今後はレクリエーション等も充実させて生産

活動だけでなく生活介護独自の活動を充実させてまいります。

利用者支援につきましては、重度の人の受け入れが可能となるよう職員体制の質・量の充実を図りました。

#### 【就労継続支援事業 B 型（パン・製菓・カフェ）】

(1) パン・製菓・カフェの B 型事業全体の売上げは、16,958 千円でした。パンは販売の場を増加させる等により対前年比で売り上げを増加することができました。製菓はときめきセレクションで入賞。姪浜地区のフリーペーパーや西日本新聞のリビング紙に取り上げていただきその効果もあり大幅な売り上げ増となりました。カフェも創意工夫によるメニューの開発により売り上げを伸ばすことができました。

(2) 地域を中心に多数の販売会に出店しました。新たに 29 年度から定期的に販売できる場所を増やす見込みでさらなる売り上げ増を図ります。

(3) 育成会全体で施設外就労として公民館の清掃事業の共同受注に取り組みました。29 年度は新たに倉庫作業を受注する予定となっております。

(4) 工賃は B 型の支給総額で 5,184 千円、一人当たり平均月額 12,466 円となりました。

#### 【就労移行支援事業】

(1) 通常はパン班やカフェでの作業、ひまわり園内のショップでの販売に従事して就労に向け、意欲の醸成や対人関係などの基礎を経験しながら、個別のニーズに基づき、関係機関と連携して、就労支援セミナーや実習に積極的に参加しましたが就職に結びつけることはできませんでした。今後とも一人ひとりに合った個別支援計画をもとに一般就労が実現できるよう支援していきます。

(2) 今までに就職した方につきましても、今後も定期的に巡回し雇用者との関係維持や本人からの相談にのるなど定着に努めていきます。

#### 5 余暇活動

(2) クラブ活動 毎月 1 回外部から専門の講師を招き、文化的余暇活動（茶道、書道、絵画）と体育的余暇活動（エアロビクス、ウォーキング、軽運動）を実施し、日常の作業から離れ、リフレッシュするなど余暇に対する関心を高め充実を図りました。

(3) 休日余暇活動 毎月第 2、第 4 土曜日、希望者に余暇活動を実施し、年間 22 回・延べ 294 名の参加を得ました。今年度は要望等を基にカラオケ大会やボウリング、イオンモールでの買い物、DVD 鑑賞等を実施しました。

(4) イベントや招待行事等につきましては、随時案内し社会参加・体験の機会を提供しました。

## 6 健康管理と防火管理等

(1) 利用者全員を対象に嘱託医（マリン病院・中庭メンタルクリニック）による健診を2回ずつ実施、また結核予防センターに依頼してレントゲン検診、血液検査を実施しました。その結果をもとに看護師による健康相談を行い生活習慣病の予防に取り組みました。

(2) 防災に対する関心と避難行動の習慣化を意識づけるため避難訓練を2回実施しました。

(3) 毎月1回施設内の安全点検を行い危険箇所の早期発見と改善に取り組みました。

(4) ヒヤリ・ハットの提出により職員間の情報の共有化を図り、危機管理への意識を高めています。

## 7 その他の取り組み

(1) ふれあい旅行 見聞を広めまた社会的マナーを学ぶこと等を目的に、1泊2日の旅行（長崎・佐賀）を実施しました。

(2) 代表者会の実施 利用者10名による「代表者会」を毎月2回開催し、施設サービスに関する意見聴取の機会を設けました。2月には代表者会メンバーによる司会進行で「本人の声を聞く会」を開催して意見交換を行いました。仕事に関すること、工賃の使い方について意見発表が行われました。

(3) 保護者会への出席 毎月1回保護者会に出席して、施設の運営状況について説明し理解協力を求め意思の疎通を図りました。また、普段の草花の手入れもご協力頂いています。他におやじの会が2ヶ月に1回開かれ職員との意見交換や交流を図りました。

(4) 職員研修 【法人内研修】 新人職員に対する研修。新たに始まった法人内職員による「実践発表研修会」で園の取り組みを発表しました。虐待防止委員会による障がい者虐待防止に関する研修、保護者会主催の研修等に参加しました。

【施設外研修】 育成会関連の研修（全国、九州）、社会就労センター、日本知的障害福祉協会、県社協、市社協等の研修に勤務経験や職務内容に応じて参加しました。園内の会議等で報告し職員間の情報の共有化を図っています。

(5) 送迎の実施 昨年度は車両一台（乗車定員10名）をリースにより増やし、従来からある車両と合わせて毎日計4台で送迎をしています。多い時で30名の送迎の希望にこたえています。希望はまだ増加するものと思われ、送迎車両を増やすかマイクロによる送迎も考えていかなければならないと思っています。

## 8 地域との交流

(1) 5月に地域懇談会を実施し、地元自治会や学校関係の方々に施設運営や利用者の現状について説明し施設への理解と協力をお願いしました。10月に地域やボランティアの方々の参加協力を得て「阿古女祭」を開催し天候に恵まれ700名を越す来場者があり商品の買上げやステージ出し物等を楽しんでいただきました。また2月には「感謝デイ」を開催し300人を越す来場がありました。

(2) 施設見学や学生の実習等を積極的に受け入れ障がい者への理解や啓発に努めました。

(3) 事業所内売店で原則として毎日、地域の方を対象にパンやクッキー等の製品を販売しました。また、毎月1回の地域清掃活動を通して環境美化に努めました。さらに地域老人クラブに施設の貸し出し等を行い、地域における社会資源としての活用促進に協力しました。地域防災活動に参加。また「子育て支援施設」の認証を県より受け、子育て支援に協力する取り組みを行っています。

## 9 グループホーム（ひまわりハウス）のバックアップ

3箇所のグループホーム（第1：西区今宿、第2：南区皿山、第3：西区壱岐団地）をひまわりパークつぼみ、六本松、上牟田の支援を受けて定期的に巡回して入居者の相談に応じるとともに、個別支援計画を作成してその計画のもと生活面や健康面での支援を行い、バックアップ施設として地域生活支援の充実に努めました。法人が新たに立ち上げた「早良ひまわりハウス」に29年度よりバックアップ機能を移行致します。

## 10 特定相談支援事業

28年度も法人内外の利用者の計画相談を実施しました。29度は新たに市より受託いたしました基幹相談支援センターと一体となった相談体制が構築される予定となっています。

## 11 苦情受付状況

平成28年度、苦情受付はありませんでした。苦情があがるか否かにかかわらず今後とも利用者の知的障害特有の行動障害に対して、事前対応を心がけるとともに地域住民の理解を得ていくことが必要だと考えています。